東日本大震災から1年…

災害から学んだものを風化させないために

津波で甚大な被害を受けた石巻市　消防局 國分博文 撮影（平成23年3月19日）

絆 頑張ろう！日本

被災地はまだまだ復興途中。これからも被災地へ支援を続けていくために、今の私たちに何ができるか、何をすべきか再度考え、行動に移してほしい。

昨年3月11日14時46分ごろ太平洋三陸沖を震源として発生した巨大地震。私はその時、本庁舎の6階で勤務中だったが、確かに揺れを感じた。地震の規模は国内観測史上最大のM9。地震が引き起こした大規模な津波は、人々の想像をはるかに超え、瞬く間に東日本一帯に甚大な被害をもたらした。

東北地方の緊急事態を受け、ただちに本市は被災地支援に動き出した。18日には、消防局の緊急消防援助隊派遣隊員10人が宮城県石巻市で捜索活動を開始。26日には、水道局職員4人からなる被災地応急給水隊が福島県いわき市で被災者への給水活動を開始。これに引き続き保健師・建築技師・一般事務職員15人も被災地の市町村で、人的支援を行った。これ以外にも、市民の皆さまからご提供いただいたタオルなどの支援物資を被災地へ搬送したほか、被災地から本市へ避難してきた12世帯24人を受け入れ、住宅支援、移動支援、生活支援などを行っている。

鹿児島に住む私たちも、過去に大きな風水害を経験し、命の尊さ、人と人との絆、支え合う心、思いやりの心など、たくさんの教訓を得た。明日、今日、そして今、災害が起こらないとは限らない。家族の命を守る手段、災害に弱い人を助ける共助など、今私たちの意識と備えが問われている。

今回は、東日本大震災から1年という節目に、被災地の支援活動に尽力した職員や、災害時対応のため、現地に研修視察に行った職員の生の声を皆さんにお届けしたい。市としても、これらの支援活動などを通して得た教訓や問題点を、今後の災害時の対応に生かしていきたいと考えている。市民の皆さんも万が一の災害に備え、避難場所やそこまでのルート・移動手段などを再確認してみてはどうだろうか。